

1 どんなお話にしよっかな

使用教材：「お話のさくしやになろう」(二年上)

横浜市立朝倉小学校 佐藤詩輝

1 はじめに

学習指導要領の第一学年及び第二学年「B 書くこと」内容(1)イに、「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」とある。構成を考えるとというのは、あらかじめどんな話の筋にするのかを考えることといえる。自分で考えた話の筋をもとに楽しみながら物語を書くことをこの単元では重視していきたい。

教科書を開くと、【はじめ】【おわり】の挿絵が描かれており、【中】は空白である。この空白が、児童の創作意欲をふくらませ、楽しく想像を広げるきっかけとなる。そして【中】の部分をどのように構成し、前後とどうつなげて物語を作るかが、ねらいに迫る学習活動となる。

事柄の順序を考え、書き始める際に生かしたいのが、教科書P62にある書きだしの工夫のアドバイスだ。これらの多様な表現にふれさせ、自分で作る物語に生かせるようにしていきたい。

2 指導計画(全八時間)

次ねらい	学習活動
一 どんなお話をどんな順序に並べるか(簡単な構成)と、文章への広げ方を理解することができらる。	① 出来事をどう並べるかを共通の題材(「すべて池におちる」の前後をどうするか)で考え、書き方のひみつを探す。 ② 前時に考えた構成をもとに、つながりのある文章にするにはどうすればよいかを考える。
二 自分が作る物語の構成を考え、文と文とのつながりに気をつけて、物語の文章を書くことが出来る。	① どんなお話にしたいか(設定)、物語らしい出来事の順序(構成)を考える。考えたことを友達とペアで話しながら、物語をふくらませていく。 ② 書きだしに気をつけて【はじめ】を書く。 ③ 会話文などを工夫しながら【中】を書く。 ④ 全体のつながりを考えながら【おわり】を書く。題名を考える。 ⑤ 推敲し、清書する
三 友達の作品のよさに気づくことができる。	① 友達と作品を読み合いよいところを見つけて感想を伝え合う。

たのかという後の出来事をここで考えさせる。

② 三人グループで交流する。「前後のつながり」という視点でアドバイスし合い、自分の考えを修正する。前後につながりをもたせる出来事があれば物語らしくなる、ということを助言しながら進めていく。

③ どのような順序でどのような出来事を並べればよいかを全体で話し合う。出来事の並べ方は、出来事の内容のつながりにも気をつけなければいけない。例えば、池に落ちる前の出来事は、「池の方に散歩に出かけた」などの次の出来事にかかわる内容でありたい。この場面では、「つながり」「じゅんじよ」などの言葉を児童から引き出して「書き方のひみつ」のまじめにつなげる。

3 指導の実際(第一次①)

●ねらい…出来事の並べ方を考えることを通して、物語を作るのに必要な構成のしかたを理解する。

●学習活動
1. これまで学習してきた物語教材を振り返る。(三分)

2. 本時のめあてを確かめる。(二分)

「中」のできごとがよくつたわるような書き方のひみつを見つけよう。

3. 教科書の挿絵(P60)をもとに出来事の並べ方を考える。(三十五分)

① P61の「すべて池におちる」を【中】の共通の題材に設定し、前後の出来事をつながり気をつけながら考えワークシートに記入する

「朝、起きました。池に落ちました。家に帰りました。」だけではストーリーが展開しているとはいえない。何があって池に落ちたのかという前の出来事と、池に落ちて何があった

れを作り出していくことができるようになるだろう。何よりも、児童の「どんなお話を作ろうかな」というわくわく感を大切に、学習を進めていきたい。

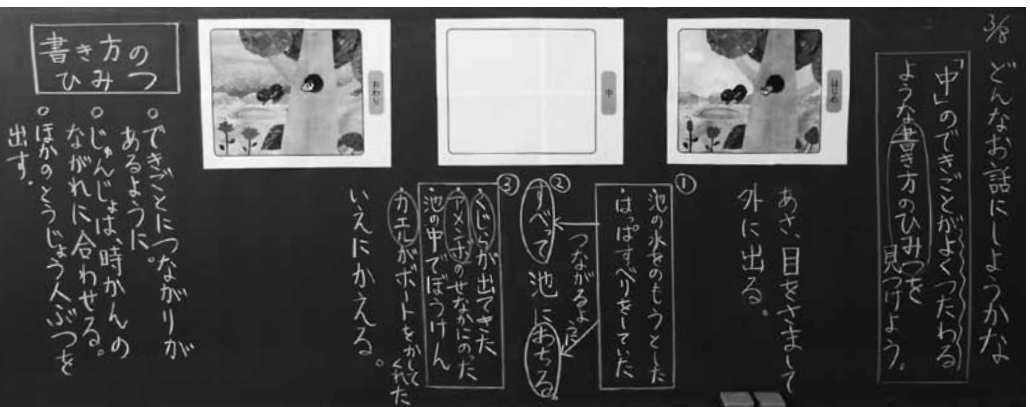
▼ワークシート



4 おわりに

「構成」と聞くと低学年には難しそうな気がするが、そこは簡単に「出来事の順序」と考えてみればどうだろう。

自分で物語を作るにあたって、初めは突拍子もない出来事を考え出すかもしれないしかし、出来事のつながりの意味と順序の大切さがわかり始めれば、楽しい物語の流



▲板書例